第８章　道徳科における問題解決的な学習

１　道徳科における問題解決的な学習とは

道徳科における問題解決的な学習とは，どのような学習なのでしょうか。
道徳科の目標に照らし合わせて，次のような要件が考えられます。

道徳科における「問題解決的な学習」の具備すべき要件

① 道徳的価値が介在している道徳的（道徳上の）問題であること。
② 自己の問題として捉え，主体的に考えられる問題であること。
③ 道徳的価値との関連から，その問題の解決が目指される学習であること。
④ 道徳科の目標およびそれぞれの時間のねらいの実現に資する学習であること。

京都産業大学教授　柴原弘志

キーワードは，
「道徳的な問題」「自己の問題，その問題の解決」「道徳科の目標」

つまり，道徳科における問題解決的な学習とは

① 道徳的な問題を
② 自己の問題として捉え
③ その問題の解決を目指し
④ 道徳科の目標の実現に資する学習

問題解決的な学習の目的

道徳的な問題を多面的・多角的に考え，児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

道徳科における「問題解決的な学習」は，これまでの道徳の授業が読み物の「心情理解」のみに偏った指導になりがちという反省を踏まえ，「質的転換」を図るうえで，「体験的な学習」とともに提案された指導方法の一つです。

問題解決的な学習は，多くの研究者や研究団体が提唱する様々な展開が考えられ，研究段階であると言えます。

明確にされているのは，「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成 28 年）」の報告の中に示された，「道徳的な問題」の捉え方です。

「道徳的な問題」とは，どのような問題のことを言うのでしょうか？
次のページで，確認してみましょう。

２　問題解決的な学習における「道徳的な問題」

道徳科の授業における「道徳的な問題」とは，道徳的価値に根差した「問題」であり，単なる日常生活の諸問題のことではありません。

○問題解決的な学習における「道徳的な問題」

①道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題　　**理想の未実現**

②道徳的諸価値について理解が不十分，または誤解していることから生じる問題　　**理解不十分**

③道徳的諸価値のことは理解しているが，それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題　　**理想実現への葛藤**

④複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題　　**価値葛藤**

出典「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成 28 年）」の報告

道徳的な問題とは，道徳的価値に関わる問題のことです。そのような問題を，道徳的価値との関連から，考え，議論することを通して解決を図っていくのです。

例えば，中学校の教材「二通の手紙」では，登場人物の「元さん」の道徳的価値（遵法精神）に対する理解が不十分なために発生した問題が描かれています。

つまり，「二通の手紙」における道徳的な問題は，「遵法精神の理解の不十分さから起こった姉弟の生命の危機」と言えます。

このような教材に内包される道徳的な問題を指導者自身がしっかりともっていなければ，問題解決的な学習は成立しないと言えます。

「二通の手紙」における道徳的な問題		道徳的価値に関わる問題の解決（個の解決）
遵法精神の理解の不十分さから起こった姉弟の生命の危機	⇒	・規則を守るとは，～～な意義があるのだ。 ・規則を守ることは，命を守ることにもなる。

●道徳科における問題解決的な学習のエラー

「問題解決」と称して「主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合い」に終始したり，話合いを盛り上げるために，「対立」ばかりをあおったりするような授業は，注意が必要です。

また，「道徳的価値」を学ぶことから離れた，「その場を切り抜けるにはどうしたらよいか」という，いわゆる「処世術」を学ぶことに偏った授業も注意する必要があります。

学級の諸問題を話合い，学級全体で一つの解決策を考え出し，明日から全員で実行していこう等という学習は，道徳科の学習ではありません。それは，特別活動（学級会）です。

道徳科の問題解決は，道徳的な問題に対する個の解決です。自分にとって，何が大切なのか，何が課題なのかを一人一人に気付かせていくことが大切です。集団等での話合いは，そのための手立てです。

３　問題意識の喚起

○問題意識とは

> 問題意識は，児童生徒が抱く疑問や驚き，違和感等であり，学習のきっかけや学習を推進するエネルギーとなります。

道徳科における問題解決的な学習は，道徳的な問題を**自己の問題として捉え**，その問題の解決を目指す学習です。

児童生徒が何の問題意識をもたずに他人事として学習に向かうなら，問題解決的な学習は成立しないと思います。

○問題意識をもたせるには

例えば，導入の場面で，次の㋐～㋒等の指導の工夫が考えらます。

㋐ 予想と反する事実を示す

例えば，読み物教材の内容から問題意識をもたせることが考えられます。

「困っている人を見たら，親切にしたいと思う人，手を挙げてごらん。（多くの子が挙手をする。）しかし，今日のお話に出てくる人は，相手が困っているのに，わざと助けませんでした。この人は不親切な人なのかな。」等と問いかけ，教材中に引き込みます。

このような子どもの予想と反する事実を示し，問題意識をもたせるようにします。

〈期待される児童生徒の問題意識〉例

・助けないのは，何か理由があるのかな。
・困っている人を助けない親切もあるのかな。

㋑ 理想と現実のギャップを示す

例えば，事前にアンケートを行い，その結果を示すという方法があります。学校の道具や物は大切にしなければならないと多くの子どもは思っています。しかし，実際にできていない場合があります。委員会活動等で調査した理想と違った事実を提示すれば，子どもの意識の中に波が立ち，それが問題意識となっていきます。

〈期待される児童生徒の問題意識〉例

・大切なのに，どうして守れないのかな。
・こんなに守れていないのか。何でだろう。

㋒ 日常生活の無意識から意識化へ

子どもたちは，日常生活の中で，多くの道徳的な問題場面に出会っています。しかし，解決することなく時間の経過とともに意識の奥底に留まっているものもあると思います。

例えば，目標を決めてやろうとしたが，途中であきらめてしまい，悔しい思いだけが残ったという経験があったとします。このような経験をただの事実として聞き出すだけでなく，「何が問題なのかな」「何が足りないのかな」「どうすればよかったのかな」等と問いかけ，子ども達とのやりとりの中で，教室全体の話題にしていけば，これまで無意識だったものが，意識化され問題意識となっていきます。

〈期待される児童生徒の問題意識〉例

・どうすれば，あきらめずに，がんばれるのかな。
・わたしには，何が足りないのかな。

４　問題解決的な学習展開（例）

「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成 28 年)」の報告をもとにすると，問題解決的な学習の展開例は，次のように示すことができます。　　（一部改変）

<table>
<tr><td>導入</td><td>問題の発見や道徳的価値の想起など　　【めあて】
・教材や日常生活から道徳的な問題を見付ける。
・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し，道徳的価値の意味や意義への問いをもつ。等</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など　　【中心発問（課題)】
・道徳的な問題について，なぜ問題となっているのか，問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのか等について多面的・多角的に考える。
・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し，多面的・多角的に検討する。等

【教師の主な発問例】
・ここでは，何が問題になっていますか。
・何と何で迷っていますか。
・なぜ，■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。
・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょう。
・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。
・なぜ，自分はそのように行動するのでしょう。
・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。

解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・自分の課題発見
・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について，なぜそれを大切にしたのか等について話し合い，考えを深める。
・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で，実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 等

まとめ
・話し合ったことや考えたことを児童生徒が自覚できるように整理する。
・複数の考えを一つの考えに，教師が集約するような「まとめ」はしない。
（授業によっては，自然な流れで集約される場合も考えられる。）</td></tr>
<tr><td>終末</td><td>振り返り
・本時で学習したことを振り返り，今後どのように生かすことができるか考える。
・道徳的諸価値に関する問いに対し，自分なりの考えをまとめる。
・教師による説話。等</td></tr>
</table>

ここで示した展開例は，特定の指導の「型」を示しているわけではありません。この他にも，体験的な学習を組み合わせる等，様々な展開が考えられます。

５　具体的な展開例

（１）小学校の展開例（「森川君のうわさ」６年　公正、公平、社会正義）

「森川君のうわさ」における道徳的な問題

主人公や級友の公正、公平、社会正義に基づいた行為が実現しないために起きたうわさと仲間外し

道徳的価値に関わる問題の解決（個の解決）

・根拠のないうわさや偏見がいじめにつながるのだ。
・公正、公平に接することは簡単なことではない。周囲に流されない強い心が必要なのだ。

導入	道徳的価値の想起　【めあて】 ・いじめに関する新聞記事を紹介し，本時の学習に対する問題意識をもたせる。 ○いじめのないクラスにするには，どんな心が大切なのだろうか。
展開	・教材を範読し，本時の学習の中心場面を振り返り，教材の概要及び問題場面をつかませる。 道徳的な問題状況の分析 ○主人公が，森川君のうわさに対して，「ちがう」と言えなかったのはなぜだろう。 ・主人公が同調圧力に流されていることに気付けるように，子どもの考えを取り上げていく。 ◎森川君が，仲間外しになったのは，何が原因だと思うか。【中心発問（課題）】 ・森川君が仲間外しになっている原因について，グループなどで話合い，主人公の立場やそれ以外の立場，学級全体の視点など，多面的・多角的に考えさせる。 ・仲間外しの原因を主人公の立場やそれ以外の立場など，考えの違いを見えるように端的に板書していく。 道徳的価値の理解の深化 ○自分がこの場面にいたら，「うわさはちがう」と言えただろうか。 ・森川君の立場から発言する子どもの考えを取り上げ，自分がこの場面にいたら，うわさを否定できたかどうかを問いかけ，同調圧力に対する人間の弱さやうわさ，偏見がいじめにつながることに気付かせていく。 ○まとめ ・板書をもとに，話し合ったことや考えたことを振り返りながら，仲間外しの原因となった考え方をいくつかの視点から整理して示す。
終末	振り返り　道徳的価値に関わる問題の解決（個の解決） ○いじめのないクラスにするために，自分にとって大切だと感じたことを書こう。 ・「いじめのないクラスにするためには」という問いに対し，本時の学習をもとに自分なりの考えをまとめさせる。

Point!

本書の 70～71 ページにも，問題解決的な学習の展開例を掲載していますので，合わせてご覧ください。　⇒　「雨のバス停留所で」

（２）中学校の展開例（「裏庭の出来事」１年　自主，自律，自由と責任）

「裏庭のできごと」における道徳的な問題

誠実に行動しようとする自分と友達のことを思い行動できない自分との葛藤から心の問題を抱える健司

道徳的価値に関わる問題の解決（個の解決）

・自分を偽ったり，自分の行動に責任をもてなかったりした時，人の心は暗くなるのだ。
・自分で考え，判断し行動することが前向きで，誇りある生き方につながるのだ。

導入	道徳的価値の想起　【めあて】 ・自分に正直に行動できなかったり，いけない事を隠したりした時の心の状態を想起させ，本時の学習への方向付けを行う。 ○自分の心に正直の生きることは，なぜ大切なことなのだろうか。
展開	・教材を範読し，主人公の健司，雄一，大輔の立場や言動を振り返り，３人の関係を理解させる。 道徳的な問題状況の分析 ○健司は，何と何に迷っているのか。 ・自分のするべきことを理解しながらも，大輔との関係を気にして行動に移せない健司の迷いに気付かせていく。 ・健司の迷いが明確になったところで，自分がこの場面にいたら，どのような考えをもつのかを問いかけ，自分の心に正直に行動する難しさを感じさせる。 ◎健司は，鏡に映った自分を見ながらどんなことを考えたと思うか。【中心発問（課題）】 ・子どもの考えを，＜自分の心をすっきりさせたい＞，＜自分の行為への責任＞などの側面から傾聴し，考えの違いを見えるように端的に板書していく。 道徳的価値の理解の深化 ○迷いながらも健司は決心したが，鏡に映った自分を見た時のどのような考えが影響していると思うか。 ・健司が，自分の問題を解決する上で大切にした考え方について，なぜそれが大切なのか，話合いを通じて考えを深める。 ○まとめ ・板書をもとに，話し合ったことや考えたことを振り返りながら，健司が考えたことを＜すっきりさせたい＞＜正直＞＜責任＞などの視点から整理して示す。
終末	振り返り　道徳的価値に関わる問題の解決（個の解決） ○自分の心に正直の生きることは，なぜ大切だと思うか。 ・本時を振り返り，本時で学習したことをもとに，自分にとって大切だと思う考え方をまとめさせる。

Point!

本書の 74～75 ページにも，問題解決的な学習の展開例を掲載していますので，合わせてご覧ください。　⇒　「二通の手紙」